

天之磐扉

(第9回公演・動画解説資料)

2016年9月9日に開催された神楽公演の舞台動画です。15:15～16:00まで。約45分間の里神楽映像となっています。

一般的に、この演目が奉納されるのは、例えば神楽殿の改修工事が終わったとか、鳥居が建立されたとか、神社でめでたい出来事があったときだと思えます。「神楽十八番」という言葉がありますように、とにかく特別にめでたい時の神楽演目だにご理解ください。

江戸里神楽公演学生実行委員会では、デジタル・オーディエンスを対象に神楽公演動画を、試験的にウェブにアップしました。なお、デジタル・オーディエンスと表現したものの、江戸里神楽、相模里神楽に少しご関心がある方々という限定的な皆様を対象とする解説内容になっています。アップ後にオーディエンスのご意見を頂戴しながら加除訂正を含めて、追記していくことになると思っています。よろしくお願ひします。

なお、神楽の動画はすべて、実行委員会活動にボランティアで参加されているイナ・ヴォイス若葉会（葭谷昭会長）が撮影・編集したものを使用しています。

インターネット世界では、様々な神楽動画が配信されていますが、実行委員会では、数多くの里神楽動画に対してキューレイション、アグリゲイションする立場に目下のところ向かうエネルギーはありません。

○鑑賞のチェックポイント

まず、粗筋ですがアマテラスと呼ばれる女性神がいます。この女性神は太陽神です。アマテラスが岩穴に入り、扉を閉めて隠れてしまいます。太陽が隠れてしまったのですから、世の中は真っ暗闇。災いが各地で発生します。この事態に困った多くの神様が集まり、岩穴に隠れているアマテラスを再び、外に連れ出す方策を協議します。リーダー役であるオモイカネノミコトがウズメという女性神に対して、踊ってアマテラスの気持ちを慰めよう、楽しんでもらおうと提案します。（神楽の起源をここに求める出来事、とされています。）

ウズメは期待に答えて、踊ります。この踊りが激しく、面白く、見物していた他の神様も大いに喜びました。隠れていたアマテラスも、何があったのだろうと扉を少し開けて、外の様子を伺います。そこに、力持ちのタジカラが登場

して、扉を外して、アマテラスをお迎えする、という物語です。再び、明るい世の中に戻っていくので、めでたい演目と理解されています。

○舞台の流れ

*演奏されている神楽囃子にもご注目ください。

01：多くの神様、八百万（やおよろず）の神様が登場します。状況設定は、暗闇です。また、大きな岩がある山の中とのことです。手探り、足探りしながら神々が集まってきます。

神々と採り物の関係がよく見えてきます。採り物を見て、神様の名前をご推察、ご理解ください。

02：神々が登場するので、〈神々の出端〉という場面となっています。ここで演奏されている神楽囃子は、〔鎌倉〕です。

03：神々は、磐扉の前に手探り状態ではあるものの、無事に集合できました。ここから、〈オモイガネの舞い納め〉の場面です。

〽ここは高天原なるや 集まり給う万（よろず）の神々 とオモイガネが謡います。

篠（篠笛）の〔本間〕が演奏され、舞い納めとなります。

04：次の場面は、神々（八百万の神々の代表みたいなポジション）が輪になって、協議がなされます。この〈神々の円陣〉場面では〔下がり端〕が演奏されています。

05：神々のリーダー、オモイガネがウズメに対して、舞を舞うように命じます。

06：オモイガネに命じられたウズメは、神楽鈴と榊の枝を持って、早速に舞の支度。〈昇殿之舞〉の場面に入ります。神楽囃子は、〔篠の昇殿〕が演奏されます。これは、四方固めの意味合いだと考えられます。この舞台を清めていきます。

昇殿之舞の途中から、神楽囃子は〔印場〕に変化します。舞台の空気は一変。神々も手拍子でウズメに応えます。

舞の激しさは増すばかり、とうとうウズメの衣裳の紐も解け、着衣が乱れていきます。神がかっていくウズメはとうとう転倒してしまいます。トランス状態を表現しているかと思われま。

07：神々は大爆笑。

すると、オモイガネが謡います。

ゝあなさやけ あな面白や あな楽し ウズメノミコト おけおけおけ

とウズメを褒め称えます。

□

08：舞の終わりは、舞い納めで一区切り。ウズメは〔篠笛での本間〕により、舞納めとなります。

09：ここで、事態が動きます。磐扉の向こうに隠れているアマテラスが外の騒がしさを気にしてか、少しだけ扉を開けて様子をうかがいます。神楽囃子は〔早、探りの早〕が演奏されます。同時に、怪力のタジカラの〈出端（登場）〉の場面、登場を促します。

10：磐扉が少し動いたことを知ったウズメは、笹の枝で物陰に控えていたタジカラを呼びだします。

11：矛を持ったタジカラが登場。暗闇ですから、手探り、足探りで登場。〔玉管（場合によっては笛が二丁）による探りの早〕が演奏され、さらに付け板を効果的に入れながら、怪力タジカラの登場を演出していきます。

12：タジカラの転倒場面。暗闇、道に迷うタジカラ。石につまずき転倒します。心配するウズメは榊の枝を振り、音でタジカラを導きます。

矛に人影が映った！その人影を頼りに道に戻るタジカラ。

13：ウズメとタジカラの出会い。ウズメを見つけ、矛をウズメに向けるタジカラ。互いに顔を見合わせ、慌て気味にウズメに謝るタジカラ。神楽囃子は、〔探りの早〕から、〔下がり端〕へ移っていきます。

14：「この磐扉をあなたの怪力で開けてもらいたい。再び、アマテラスをこの世に戻して欲しい」とタジカラに頼むウズメ。神楽囃子は〔早めの下がり端〕が演奏されます。

15：ウズメは、榊の枝で、タジカラを磐扉の前に案内します。タジカラは、磐扉を開けることを誓います。（承諾します）

16：父親にご挨拶の場面。タジカラは父親であるオモイガネに挨拶してから、磐扉を開け始めます。神楽囃子は〔下がり端から、王管の早〕にかかります。

17：タジカラの謝罪の場面。矛で扉を砕こうと思った後に、アマテラスに矛先を向けることは、畏れ多いことと気づいたタジカラ。お詫びが入ります。お詫びの場面で、神楽囃子は〔早い下がり端〕が演奏されます。

18：タジカラは力帯（ちからおび）を締めて、身支度を整えます。そして、自分の力で扉を開こうと挑んでいきます。

上手から、次に下手から扉開けを試しますが、磐扉はびくともしません。神楽囃子は〔早〕が演奏されています。精も魂尽き果てるタジカラ。

19：タジカラの一休みの場面。タジカラは清らかな水を飲み、力を再びみなぎらせて、磐扉に中央から扉開けに挑戦していきます。この場面では、大拍子だけが響きます。再び、タジカラが動きはじめますと神楽囃子は〔早〕。

磐扉（岩の扉）を上手から、下手から、そして最後に真ん中から攻めていくので、「三本攻め」と表現しています。

また、さながら雲を切って磐扉前まで進む所作がありますが、この所作を「雲切りの舞」と呼びならわしています。

20：タジカラの気合いと腕力で、とうとう磐扉は押し開かれていきます。岩穴からは、アマテラスが登場します。神々は深々と頭を下げて、アマテラスをお迎えします。再び、世界が明るくなった、という場面です。神楽囃子は〔早〕から、〔れんぼ〕という曲に変わります。

21：磐扉（岩戸）を持ち上げるタジカラ。高く掲げて、遠くへ放り投げてしまいます。夢中だったタジカラは自分の手のひらを見て、世界が明るくなったことに気がつきます。

22：タジカラのお迎え場面です。タジカラ、少し慌て気味にアマテラスのところに近寄り、深く一礼後にアマテラスを迎えます。

23：岩穴から登場したアマテラス、ゆっくりと回ります。このゆっくりとした歩きは、神楽を演じる神楽師にとって芸の見せ所。家元、手練れがこの役について神々しさ、気品を表現します。

24：アマテラス、神前で一礼。フトダマが道案内役で、側に寄っていきます。フトダマを先頭に、アマテラス、ウズメ、コヤネ、オモイガネの順番で、一列になって引っ込む支度を整えます。神楽囃子はゆっくりとした〔下がり端〕

25：コヤネの謡。

いいかばかり、強き力もさもあらん、岩戸を開けし 神の勢（いさおし）とコヤネが謡います。

26：「テンショウノヒトミエ」（天照大御神の一見得）と呼ばれるアマテラスの大きな見得があります。オモイガネの謡がきっかけになっています。

27：後に控えていたタジカラも、オモイガネの謡をきっかけに矛と扇子で見得をします。全員が立ち上がり、引っ込みとなります。神楽囃子は幾分、ゆっくり目の〔下がり端〕が演奏されます。

28：いよいよ最大の見せ場、タジカラの引っ込みとなります。この引っ込みこそが家元の芸の見せ所となります。神楽囃子は〔下がり端〕から〔早〕と成ります。

○タジカラの装束に注目

柄ものの手甲脚絆を用いています。闇夜の世界を歩いてくるため、草履を履いています。鎧下と呼ばれる着付けを着用します。大口袴を着用します。掛鎧を着用します。お腹には枕と呼ばれるあんこを入れます。石帯をします。その上から綿の入ったしごき帯をします。黒の大振毛を用います。その上から鉢巻をします。烏帽子は唐冠と呼ばれる冠を用います。能では真っ黒ですが、垣澤社中では色鮮やかに描いています。

なお、垣澤社中の衣装立てについては、『第九回楽しくて、わかりやすい江戸里神楽公演解説プログラム』の102ページから103ページにかけて、一覧表を用意しておりますので、ご参照ください。里神楽の芸態記録、芸態記述、芸態比較は、一つの演目毎に複数の動画資料を用意して丁寧に映像を言語化していく作業を抜きに前に進みません。さらに、共有できる（つまりアクセス・フリー）の、いわばベースとなる動画資料と解説資料が用意されていないと、エビデンスとなりにくい。そこで煩さな作業が続きます。演じ手（垣澤社中）との共同作業が公演後も続いております。装束情報も芸態を構成するものの一つ。この分野も重要です。

○基本データ（奥付）

動画名称 『第九回楽しくて、わかりやすい江戸里神楽公演～天之磐扉』（会場撮影）
動画番号 9-02
出演団体 相模里神楽 垣澤社中（神奈川県厚木市酒井）
公演会場 さいたま芸術劇場小ホール（さいたま市中央区）
主 催 江戸里神楽公演学生実行委員会
開催期日 2016年9月9日（金）
撮影編集 イナ・ヴォイス若葉会（会長 葎谷昭）
動画UP 葎谷 昭（いきがい大学伊奈学園ボランティア情報センター）
江戸里神楽公演学生実行委員会（2016年10月1日）

写真撮影 ソニオンフォトクラブ有志（会長 辻田勝裕）

参考資料 『第九回楽しくて、わかりやすい江戸里神楽公演解説プログラム』
（2016年9月9日刊行）

出演者 天照大御神 塩川一美
天之布都玉命 中山敏男
天児屋根命 石渡 勇
天之鈿女命 垣澤 瑞貴
天之思兼命 垣澤 良
天之手力男命 垣澤 勉

囃子方

大拍子 信太龍也

笛 西方陽一

大太鼓 大貫恒文

足 木 垣澤賢治

後 見 加藤美津枝

*着付 高見進 坂本舞 小西浅美

○公演協賛会社等（敬称略）

有限会社望月商店 有限会社ドゥクラスター 株式会社フミテック 株式会社
大丸衣裳店 有限会社とらや 整体リラクワ表参道 株式会社ベル・アンファ
ン 白石真弓染色アート学院 JA あつぎ厚木市農業協同組合 湘北短期大学
株式会社程島商店 有限会社豆庄 株式会社福田建具 共栄建設株式会社 岩
槻人形協同組合 薄井崇宏

追記・垣澤社中の功績・神奈川の大学生スタッフの尽力

第九回公演、私たちは神奈川県厚木市酒井から、相模里神楽 垣澤社中をお招きしました。私は、そのことの大変さを伝えるとき、出演者のスケジュールをまず伝えることにしています。公演当日、午前6時30分に本厚木駅に集合して、6時46分発の「さがみ68号ロマンスカー」に乗車、なんとか午前9時前にさいたま芸術劇場（新宿駅経由で埼京線与野本町駅下車）にお越しいただいた、という事実です。

演じ手さんは、それから支度をして、リハーサルへ。昼食も慌ただしく（もちろん、夕食も慌ただしい）打ち合わせをしながら、着付けに入らないと間に合いません。序開きの寿式三番叟からフィナーレの寿獅子舞までの一日は、着付けの連続ですから本当に修羅場だったと思います。

9月9日の前日、つまり8日ですが厚木の家元の家から神楽衣裳その他の神楽用具を積み出して、午後3時過ぎには二台の自動車で劇場まで運び込んでいます。小ホール of 舞台裏付近で開梱して、衣裳・道具の確認をしておられました。道具に忘れ物があったら、アウトですから懸命な確認作業がありました。

立ち会った一部の学生スタッフは、その後、劇場内で明日に向かってのミーティングを開催されていました。

9日の午後8時。終演後、お客さんをお見送りしてから片付けに入り、レンタカーに積み込むまでの時間がおおよそ1時間余でした。さすがに、舞台を終えて、片付けて、厚木まで運搬するのは、無理。疲労困憊の状態ですから危険。そこで、垣澤父子のお二人が劇場近くに宿泊して翌朝、厚木に戻って行かれたしだいです。

翌朝には劇場にて、プログラム、チラシなどの残部を小さな日産マーチ・神楽号に積み込み、そしてレンタルしていたスクリーンとプロジェクターの搬出準備に追われていました。

こうした慌ただしい三日間を過ごしますと、準備からの長い道のりが頭の中に思い起こされ「ロング&ワインディングロード」というポールマッカートニーの歌が流れてきます。確かにこのボランティア公演は、負担度が高くて、道のりが超長いブラック活動です。本当に、未来が描けない公演だと思いながら、この歌のイントロのフレーズを繰り返しつつ、休息に入っていきます。

動画を再生しながら、デジタル・オーディエンスという未知の方々は何をお届けすることがいいのかな、と考えますと、「あらゆる困難を克服して、垣澤社中の皆さんが公演にご協力してくださった」という事実をお伝えしたいと思いました。公演動画を通して、相模の神楽師魂をお伝えすることだと思いました。

加えて、学生ボランティアの活躍についても、一言触れさせていただきます。平塚市の東海大学、厚木市の湘北短期大学から、ボランティア学生スタッフが参加されました。東海大スタッフは舞台、字幕制作を担当していただき、湘北短期大学の学生スタッフは、司会進行を担当してくださいました。

東海大スタッフも早朝に出発、湘北短期大学の学生スタッフは浦和で前泊と

いう手配をされての参加でした。

こうした神奈川の大学生スタッフのご協力があって、この公演は成功したのだと思っています。深く感謝しています。

(構成&文責・江戸里神楽公演学生実行委員会)